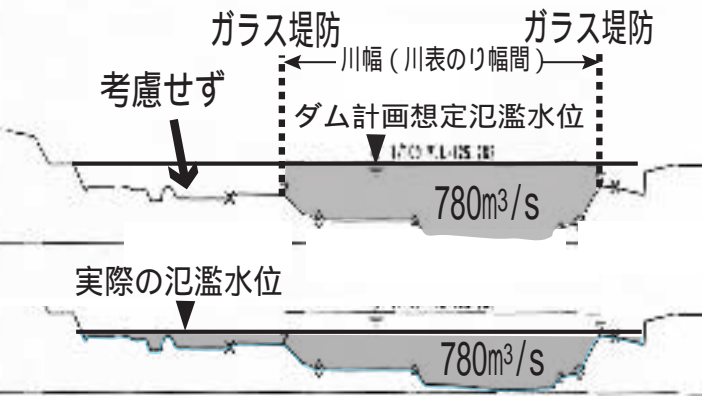


《3》 氾濫水位を水増するガラス堤防！



氾濫水位の算定では川縁に仮想の敷居を立てて外側を考慮しないという、大まかな計算がなされています。

さらに、780m³/s水位は築川最下流(北上川との合流点)でほんの瞬間だけ観測されるはずなのに、上流8km地点以降全域の氾濫水位として使用されています。

このようにして作成された想定氾濫区域は必然的に実状とまるでかけ離れたものとなります。

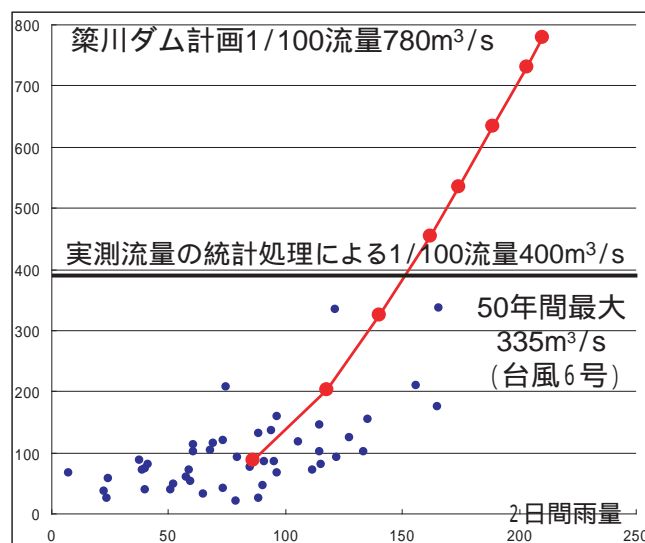
しかし、これが「洪水被害よりダムを造った方が安い」という根拠になっているのです。

基本高水流量(780m³/s)の計算にも問題があります！

築川ダム計画の計算によれば、「100年間で最大の洪水におけるピーク流量は780m³/s」とのことですが、これも詳細な検証に耐えうるものではありません。築川流域懇談会では計算上の問題点がいくつも指摘されています。

流量(水位)計測がある40年の間にダム計画が示唆するような大きな洪水は一度も起きていません。(これまでの実測最大洪水は平成14年の335m³/s)

実測流量40年分の統計処理から求めた1/100確率流量は400m³/sです。問題点を修正すれば、計算流量は400m³/sにかなり近づくと考えられます。



築川ダム事業再々評価委員会が始まりました。

築川ダム建設はまだ「決定」ではありません。計画上の問題点が次々と明らかにされる今、評価を決定づけるのは地元住民の声といっても過言ではありません。

ダムと付け替え道路は別個の事業として諮問されています。

付け替え道路はOK、だけどダムは中止という評価も当然あり得ます。

流域に必要なのはダムではなく、決壊しない堤防と災害補償ではないでしょうか。

堤防の強化改修は約5億円ほどで可能です。災害補償制度を設けることにより、ダムでは防げない土砂災害や支流の増水被害にも対応できます。これは国の河川審議会の答申にもなっています。

最も大きな判断材料は地元の声です。

評価委員が最も気にかけるのは地元住民の声です。以前私達の行った下流域での聞き取り調査では、「ダムはいらない。環境に対する配慮を」という声が大きかったようです。県は現在、事業に関する意見を募集中です。ぜひともみなさんの声を行政へ届けてください。(締め切り8月31日 住所・氏名の記載必要)

郵送の場合 〒020-8570 岩手県総合政策室経営評価課

(郵便番号のみで届きますので、県庁の住所の記載は不要です)

ファクシミリの場合 019-629-5189

電子メールの場合 e-mailアドレス: AA0002@pref.iwate.jp

このチラシへのご意見・ご感想・ご質問は

「築川ダムに反対する市民の会」代表 関 千尋

盛岡市菜園2丁目8-18-804

Tel 019(624)1884

E-mail iraku3202@yahoo.co.jp